

ドラえもん のび太の切り札(ジョーカー)

のびる

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

投稿していた作品を書き直しました

ドラえもんがいなくなつてからのお話です

のび太が仮面ライダージョーカーになつてすすきが原を守るお話です

5月9日 タイトルの新を外しました
タグにオリキャラと主人公はのび太を追
加しました

目次

プロローグ	1
ドラえもんからの贈り物	6
学校での出来事	11
平和の崩壊	15
折れた足で戦えるのか	21
仮面ライダーエターナル	27
シヨツカーが支配する世界	37

プロローグ

ドラえもんが去る前日の夜

ドラえもん「のび太くん……僕はきみが心配なんだ」

のび太は首をかしげて

のび太「何がさ」

ドラえもん「君はジャイアンから暴力を振るわれたり、スネ夫からバカにされても大丈夫？」

ドラえもんが心底心配そうな顔で聞いてくる

のび太「大丈夫！ちゃんとやっていけるよ！」

のび太「いつまでも君に頼ってられないしね」

のび太は優しい笑顔で言う

ドラえもん「ちょ、ちょっとその辺を散歩してくる」

涙を流しながらドラえもんは走って行った

のび太「涙を見せたくなかったんだ。いいやつだなあ」

のび太は土管に座り、泣き止んで帰ってくるのを待っていた

ジャイアン「グゴグゴ」

のび太「ジャイアンだ。そういうえばたまに寝ぼけて散歩するって言ってたっけ」

ジャイアン「ん？」

ジャイアンは土管の上に座っているのび太を見て

ジャイアン「見たな」

のび太「え？」

のび太くーん

のび太「！」

のび太「ジャイアン、ちよつとこつちへ」

のび太とジャイアンは土管の裏に隠れた

ドラえもん「のび太くーん！」

ドラえもん「あれ？おかしいな。確かにここにいたのに。帰ったのかな？」

ドラえもんはそう言うのと家に向かって走って行った

のび太「けんかなら、ドラえもん抜きでやろう」

ジャイアン「ほほう、えらいなお前」

ボカ！ボカ！ボカ！

ジャイアン「瞬殺だな」

のび太「待て！まだ勝負はついてないぞ！」

ジャイアン「今日はなんだか殴りがいがあるな」

ボカボカボカボカ!!!

ジャイアン「ふん、そのまま倒れていけばよかったものを」

のび太「待て！まだ倒れてないぞ！」

ジャイアン「しつこいぞ！」

ボカ！

そのころ、野比家

ドラえもん「何やってるんだろう？もう一回探しに行ってみよう」

空き地

ジャイアン「ふうふう、これで懲りたろ」

のび太「ま……だ……や……ら……れ……て……な……い……」

ジャイアン「ウザいぞ！」

のび太「最後の……日……まで……ドラ……えもん……に……迷……惑……か

けたか・・・ら」

のび太「ぼ、僕だ・・・けの・・・力で・・・君に・・・勝たない・・・と」
弱々しくも決意をした目で、のび太は言う

のび太「ドラえもんが安心して！帰れないんだ!!」

ジャイアン「知ったことか!!」

ボカ!!

ドラえもん「何やってんだろ？最後の最後まで心配かけて」

ジャイアン「いてていで！わかった！俺の負けだ、許せ」

ドラえもん「のび太くん！」

のび太「勝つ・・・たよ」

のび太「見た・・・ろ？」

のび太「いま・・・まで・・・迷惑・・・かけ・・・ちやった・・・から」

のび太「せ・・・めて・・・最後・・・の日・・・だけは・・・安心・・・

して・・・帰っ・・・て・・・もらい・・・たくて」

のび太はボコボコにされて口があまり動かない中で、必死にドラえもん今の気持ち
を伝えた

ドラえもん「うん・・・うん・・・！」

ドラえもんは、涙を流しながらのび太の話を聞いていた

野比家 のび太の部屋

ドラえもんはのび太を布団に寝かせて、未来に帰って行った

ドラえもんからの贈り物

ドラえもんが去った次の日

のび太「ん、んーっ！」

のび太は大きく背伸びをした

のび太「ドラえ……」

のび太「ドラえもんはもういないんだった」

のび太「ん？」

のび太「なんだこれ……箱？」

のび太「なんか入ってる」

のび太「手紙と……ロストドライバー？」

のび太「まず手紙を読もう」

のび太は封筒から手紙を出した

のび太くんへ

昨日は大変だったね。でもよくジャイアンに勝てたよ！凄かった！あののび太くんがジャイアンに勝つなんて、僕が初めて来た頃とは大違いだね。僕は君の成長を感じられて嬉しいよ！

でも、もつと嬉しかったことがあるんだ

それは君が『僕が安心して未来に帰れる』ように頑張ったことと

君が照れ隠しで机の上に置いていた

『ドラえもん、今までありがとう』って書いてある紙と、ダンボールで作ってあった『親友』と書かれたバツジ。

これは僕の宝物だ！

ありがとう、のび太くん

君と会えて本当によかった

君の親友　ドラえもんより

気づけばのび太は涙を流していた

そして手紙には涙が落ちたような跡があつた

のび太「ありがとう、ドラえもん」

のび太「僕の最高の親友……！」

のび太は手紙を封筒に戻そうとした

そのとき、封筒の裏に何か貼り付けてあるのが見えたのび太「なんだ？これ？」

のび太は貼り付けてあったものを取った

貼り付けてあったのはバッジだった

のび太と同じようなダンボールで作ったバッジだったそこには、ドラえもんの字で

『親友』

と書かれてあった

のび太は泣いていた。そのバッジを抱くようにして

のび太「ありがとう、ありがとうドラえもん」

のび太「これは、僕の一生の宝物だよ！」

のび太は泣きながら笑っていた

それから30分の間、のび太は泣きっぱなしだった

30分後

のび太「よし、バッジをつけよう」

のび太はバッジをつけた

のび太「なんだかドラえもんがそばにいるような気がするよ」

のび太「おっと、あとはロストドライバーだね」

ドラえもんが置いていったロストドライバーは青く塗装されていた

のび太「あと、また手紙か」

のび太「読もう」

僕の代わりにこの町を守ってね！

1行しか書かれていなかったが、もう自分しかこの町を守る人はいないということ
を再確認できた

のび太「もちろん！もしもまたドラえもんが帰って来た時に、嬉し涙を流させてみせ
るよ！」

ドラえもんからの贈り物はこれで全部だった

のび太「手紙はここに入れて、箱はここに・・・」

のび太はドラえもんが置いていったものを保管しようと、手紙は机の2番目の引き出しに、箱は押入れのドラえもんが居た場所に置いた

学校での出来事

のび太「よし、行くか！」

そう言つてのび太は学校に向かった

ドラえもんが居なくなつてからというものの、のび太は遅刻をしなくなつた
のび太『遅刻してたらドラえもんに心配されるからね』

学校

スネ夫「ねえねえみんな！今日は転校生が来るんだつて！」

ジャイアン「マジか！可愛い女の子だといいなあ」

ワイワイガヤガヤ

のび太「なんだか騒がしいなあ」

しずか「あら、のび太さん。今来たの？」

のび太「うん。ところでこの騒がしさはなんなの？」

しずか「今日、転校生が来るんですつて。どんな子かしら」

のび太「そうなんだ」

のび太『なんだかあまり興味が無いな……。ちよつと前なら騒いでたのになあ。ドラえもんが居なくなっちゃったからなのかな』

それだけ、ドラえもんという猫型ロボットが大事だったということである

先生「おーい、みんな席につけー。今日は転校生を紹介する」

教室内がざわざわし始める

先生「入って来てくれ」

転校生「……………」

ジャイアン「おおお、可愛いじゃねーか！」

スネ夫「そうだね！」

生徒A「すげー」

生徒B「胸でけー」

のび太「スースー」 <寝てる

先生「野比くん、起きなさい」

のび太「……………」

先生「この子は前、怪物騒ぎがあつた有洲市から来た。みんな、仲良くしてやってくれ」

のび太以外「はい！」

先生「あ、それと野比くん」

のび太「は、はい」

先生「君の家に住むことになったから」

のび太「え？」

全員「ええええええええええっ!!?」

先生「はい、静かに！自己紹介をするので聞きなさい！」

転校生「南沢ほのかです。よろしくお願いします」

のび太『ほのかちゃんっていうのか。っていうかなんで僕の家なの!?昨日ママがニヤ

ニヤしてたのはこれだったのか!!うわぁーどうしよう!?!』

のび太『そ、そうだ！部屋から出なけりゃいいんだ！僕ナイス！今日は冴えてるぞ！』

のび太は焦っていた。女の子と遊ぶことはあっても、一緒に暮らすなんてことはない

からだ

先生「つてことで席は野比の隣ね。すまんが野比の面倒を見てやってくれ。野比は授

業中よく寝るんだ」

ほのか「はい、わかりました」 <ニッコツ

クラスの男子（出木杉とのび太以外）『女神がいる』

ほのか「のび太くん、よろしくね」

のび太「あ、はい。こちらこそよろしく」

のび太がそう言ったとき、周りの男子からすぐく睨まれていた。ジャイアンに至っては指を鳴らしている

ジャイアン『のび太、後で殺す！』

スネ夫『なんでのび太ばかり！後でボコボコにしてやるく！！』

クラスの男子の心は1つになった！のび太をボコるということだ！

余談だが、のび太はリンチにあつて左足を骨折したそうだ

ご愁傷様

平和の崩壊

のび太「いて！いててて！」

保健の先生「あー、これは見事に折れてる。病院行きなさい」

のび太「は、はい……」

前話で話したが、のび太の右足は骨折している

保健の先生「あと、あなたもありがとうね。ここまで運ぶの大変だったでしょ？」

骨折して倒れているのび太を発見したのはほのかであった

ほのか「いえ、軽かったので大丈夫でした」

のび太「僕ってそんなに軽いの!？」

ほのか「ちゃんと食べてるか心配になるほどね」

のび太『おかしい、僕の体重は平均よりちよつと下くらいのはず……』

のび太『確かめてみよう』

のび太「先生、僕を持ち上げてみてください」

保険の先生「え？ええ……軽っ!!」

のび太「ええええええっ!!？」

のび太「そ、そんなバカな……」

のび太「た、確かに最近何も食べてないけど、まさかそんなに軽くなってるなんて……」

保健の先生「食べなきゃダメよ。あなたは育ち盛りなんだから」

のび太「わ、わかりました」

保健の先生「あと、お母さん呼んだからね」

のび太「あ、はい。ありがとうございます」

しばらくして

ママ「のび太！」

のび太「ママ！」

ママ「骨折したんでしょ!?大丈夫!?!」

のび太「うん。まあ一応はね」

ママ「ほのかちゃんが運んでくれたのね。ありがとうね」

ほのか「いえ、大した事はしてませんよ。それよりも早く病院に行かせましょう」

ママ「そうね。のび太、歩ける？」

のび太「う、うん。痛あ！」

ほのか「右足を骨折してるのに、右足で立つなんて……。まったく、のび太くんはおつちよこちよいね」

のび太「よく言われるよ……」

ママ「それじゃあ先生、ありがとうございます」

保健の先生「ええ。それじゃのび太くん、お大事にね」

のび太「はい。ありがとうございます」

校門前

のび太「ママ、ちょっと聞きたいことがあるんだけど」

ママ「何かしら？」

のび太「南沢さんって今日からうちに住むんだよね」

ママ「ええそうよ」

のび太「部屋はどこ？」

ママ「あなたの部屋よ」

のび太「ええ……?」

ママ「あなたは押し入れに寝なさいね」

のび太「わ、わかったよ……」

のび太は内心、嬉しく思っていた。ドラえもと一緒のところで寝られることにほのか「あ、のび太くん、私のことはほのかでいいよ?」

のび太「え?わ、わかった」

病院前

ママ「あ、そういうええ絶対外せない用事があるのを思い出したわ。今は、11:30!?ちよつとマズいわね。行ってくるからほのかちゃん、よろしくね」<サイフ渡し

ほのか「はい、わかりました」

のび太「いってらっしゃい」

病院

先生「見事に折れてますね。ギプスをしますね」
のび太「はい」

※作者は骨折したことないので、その痛みとか知りません

病院帰り

ほのか「ここが空き地？遊ぶのにはちょうどいい場所だね」
のび太「そうなんだ。僕たちはよくここで遊んでるよ」

???「みーつけた」

バァン！

のび太に向かって何者かが発砲してきた

のび太「え？うわっ！」

???「避けないでよ。さっさと終わらせたいからさ」

バァン！

のび太「何を言って・・・うわっ！」

チュン！

??? 「銃くらいじゃ殺せないか……。じゃあこれで」
アノマロカリス!

謎の男はアノマロカリス・ドーパントに変身した
平和は長くは続かない……

折れた足で戦えるのか

アノマロカリス「さあ、死んでくれ」

アノマロカリス・ドーパントは歯を発射した

のび太「うわわっ！」

まあなんとかわわした。右足使えないのにすごいな

のび太「そりやどうも！」

地の文に反応するなよ

のび太『つていうかほのかちゃんまったく声上げないな』

ほのかのリアクションがないのは未だびっくりしてるため

だつていきなり銃で撃ってくる人が現れたと思つたら、怪人に変身して、怪人の攻撃を右足折れてるのび太がかわしてるんだもの。驚かないはずがない

銃弾も避けてたしね

のび太『ど、どうしよう。ほのかちゃんがいるから変身できない！しかも右足折れてるから上手く戦えないし・・・』

のび太『こんなときドラえもんがいたらなあ。フアングジョーカーに変身できるんだ

けどなあ』

一応言っておくが、ドラえもんがファンングジョーカーに変身しても、あの丸いボディではない。ちゃんとした人間の姿である

ドラえもんは事あるごとにファンングジョーカーに変身したいと言っていた。理由を聞いたら

ドラえもん「だって早く走れるんだもん！」

だ、そうだ

『体の一部、とりかえっこ』でもドラえもんはしずかちゃんの脚を交換していたのび太『どうやって戦おう・・・』』

そう思った瞬間、のび太はひらめいた

のび太『トリガーで戦えばいいんじゃないか!?!』

トリガーはジョーカーの次に適合率が高いのだ

なのでトリガーで戦ってもあまり違和感はないはず

のび太『つてことでここでコピーロボットを使おう』

のび太はWの時にドラえもんからコピーロボットをもらっていた

のび太『にしてもあれだね。ここ空き地だからどこ使ってもバレるよね』

ヒュン!

どーん！

のび太が考えてるスキにアノマロカリスは歯を発射してくる

それを避けたのび太。砂埃が舞い、のび太はチャンスだと思いコピーロボットの鼻を押し、変身する

カチツ

トリガー！

のび太「変身」

トリガー！

トリガー「じゃ、後はよろしくね」

コピーのび太「うん」

砂埃が晴れ、トリガーの姿が見えた

アノマロカリス「ちっ、変身したか」

トリガー「さっさと決めさせてもらうよ。さっきのお返しも込めてね」

トリガーはアノマロカリスの足元に撃ち、砂埃を発生させる。自分の位置を特定されないためだろう

右足を骨折してて機動力0だしね

アノマロカリス「さっさと降りたかったのに……ダルい……」

トリガーはアノマロカリスの左に移動していた

だが、一向に反撃してこないし、何か独り言を言っているので、キメにかかった

トリガー「今だ！」

トリガーメモリをマキシマムスロットに入れる

トリガー！マキシマムドライブ！

トリガー「トリガー！ええつと、ええい、ルナの時と同じでいいや！フルバースト！」

トリガーマグナムのトリガーを引き、溜めたエネルギーをアノマロカリスに撃つ

アノマロカリス「退くか、かつたるいし」

アノマロカリスは逃げていった

コピーのび太「ふう、助かったね。ほのかちゃん」

ほのか「え、ええ。でも、あんな感じの怪物見たことないわね」

コピーのび太「へえ。ほのかちゃんが見た怪物ってどんなの？」

ほのか「ええつと、メダルが出てくる怪物ね」

トリガー『メダル？ってことはグリードか……。また復活したのかな？』

まあ、このへんの説明は次回でしましょう

ほのか「そういえば、のび太くん」

コピーのび太「なに？」

ほのか「のび太くんって2人いるの？」

コピーのび太、トリガー『ギクツ』

コピーのび太「ど、どういうこと？ほ、僕が2人いるわけないじゃないか」

ほのか「だってその青い人ものび太くんと同じ右足を骨折してるみたいだよ？」

ほのか「それに、砂埃が晴れたら突然居たし、さつきまで居たのび太くんが変身した
としか考えられないよ」

コピーのび太「す、凄い推理だけど・・・さすがに僕は2人居ないからね？」

ほのか「じゃあ、その青い人に変身解除してもらってのび太くんじゃない証拠を見
せてもらおうよ」

トリガー『マズい！このままでは僕が仮面ライダーだとバレてしまう！それだけはさ
けないと！』

コピーのび太「ここは覚悟を決めたほうがいいよ」ボソボソ

トリガー（コクン）

トリガーはロストドライバーを元に戻し、ガイアメモリを抜いた

ほのか「ほら、やっぱりね」

のび太「な、なんでわかったの？」

ほのか「のび太くんが人形の鼻を押し着けるところを見たの」

ほのか「そしたら人形がのび太くんの形になってこっちに来たからびつくりしたよ」

コピーのび太「じ、じゃああの2人がどうのつていうのは」

ほのか「嘘。自分から正体を明かしてもらいたかったから、つい言っちゃったの」

のび太「最初から見られてたのか。参ったなあ」

のび太「このことはみんなには内緒に・・・」

ほのか「どうしようかな？言ってもいいんだけど・・・」

のび太「それだけは勘弁して〜！」

ほのか「嘘。言わないから安心して？でも、ちゃんと説明してね」

のび太「う、うん。わかったよ」

まさかのバレ。早すぎる

仮面ライダーエターナル

シヨツカー基地

首領 「改造人間作る時間ももったいない！過去から連れてくるのだ」
戦闘員 「はい、わかりました」

時は変わって1973年

1号「む？」

2号「ん？」

エターナル「俺は、仮面ライダーエターナル」

エターナル「1号、2号。お前らを倒すために来た」

1号、2号「何!?!」

エターナル「行くぞ」

エターナルは2号の胸の辺りに殴る。2号は吹っ飛び、1号はエターナルを殴ろうとするが、止められ、蹴りで飛ばされる

1号「くっ、強い!」

2号「だが、我々は負けん!」

エターナル「いつまでそんなことが言えるかな」

1号、2号は攻めるが、全て止められ蹴りやエターナルエッジで反撃される

1号「くっ、こうなったら!2号!」

2号「おう!」

1号、2号「とう!」

エターナル マキシマムドライブ

エターナル「はっ!」

1号、2号「ライダーダブルキック!」

エターナル「.....」

2つの必殺技がぶつかり、地面に着地する

1号、2号「ぐわああっ！」

必殺技で制したのは、エターナルだった

エターナル「ふん。こんなんじや、ウォーミングアップにもならないぜ」

2017年

空き地

のび太 「つてわけで僕は戦ってるのさ」

ほのか 「そうなの。ドラえもん……会いたいな」

のび太 「どんなのか知りたい？」

ほのか 「うん」

のび太 「ドラえもんはね、どら焼きが好きでね……」

10分後

ほのか 「へえ、そんなロボットなのね。なおさら会ってみたくなっちゃった」

のび太 「そうだね。僕も会いたいよ」

のび太 「……そろそろ家に帰ろうか」

ほのか 「うん」

のび太 「あ、そうだ。ほのかちゃん、これ持ってた」

ほのか 「これは？」

のび太「それはメタルメモリ。どうも僕には合わなくてね。お守り代わりに持つてて
よ」

ほのか「うん。ありがとう」

翌日

のび太「う、うん。朝かあ……………」

のび太「そ、そうだ！学校！」

6:45

のび太「ふう。大丈夫か」

ほのか「今日は早起きね」

のび太「ほのかちゃん……………って、いつもこの時間に起きてるの？」

ほのか「うん。そうだよ」

のび太「へえ。すごいね」

ほのか「別にすごくはないよ。習慣付いてるだけだから」

のび太「僕からしたら充分すごいよ……………」

ほのか「もうそろそろご飯の時間だから行きましょう」くちよつと笑う
のび太「……………笑った？」

ほのか「……………少しだけ」

のび太、部屋の隅に移動し、体操座り

のび太「いいもん。どうせ僕は早起き出来ないんだもん」

ほのか「まあまあ、早起きできない人なんていっぱい居るから大丈夫よ」

のび太「本当？」

ほのか「本当」

のび太「……………よし、ご飯食べに行こう」

ほのか（変なところで落ち込むわね……………）

おはようございます。地の文です。今起きました

のび太（さっきのは作者か）

地の文に反応しないでください

のび太たちはご飯を食べて学校に行った

学校

先生「今日はガイアメモリを差してドーパントになってもらうぞ」

ジャイアン「よっしゃあ！これで仮面ライダーを倒せるぜ！」
のび太「!？」

ほのか「え？」

スネ夫「ま、のび太は雑魚ドーパントにしかねないだろうけどね」
のび太「せ、先生。ちよつとトイレに行つてきていいですか？」

ほのか「わ、私も」

先生「仕方ない。行つてきなさい」

のび太の組から少し離れた廊下

のび太「なんかみんなおかしくない？」

ほのか「そうね。みんな揃つて怪物になろうとしてたし」

のび太「うーん、どうしよう」

ほのか「ここは体調不良を装つて町を見て回りましょう」

のび太「ええ!?!いいの？」

ほのか「こんな状態の学校に居たって、仕方ないと思うわ」

のび太「そ、そうだね」

ほのか「じゃ、学校を出たら町がどうなってるのか見てみましょう」
のび太「う、うん」

シヨツカーが支配する世界

のび太たちは無事に早退できた

のび太「なんとか早退できたね。ああいうのは不安になるよ……」

のび太「つていうか僕たちが早退したときの話一行にまとめちゃっていいの？」
メタい話は無しでお願いします

のび太「さすがにひどいよ……」

仕方ないだろ！長々と話してたら500文字くらいいっちゃうんだから！

ほのか「そつちのほうがメタい気がする……」

ま、まあ……そんな気がする

のび太「つと、このまま話してたら無駄に時間使っちゃうね」

そろそろやめねばな

のび太「とりあえず町の様子を見てみよう」

ほのか「そうね。町の人たちまであんな感じだったら困るよ……」

空き地

「ショッカー万歳!!」

「ショッカーのために!」

のび太「・・・・・・・・・・・・・・・・オンドウルルラギッタンデイスカ!!!」

のび太「ウソダンドコドーン!!!」

ほのか「オンドウル語はダメよ! ケンジャキとかが使うものよ!」

君は本当にバカだな

のび太「バカで悪かったな!」

ほのか「いや、つい使っただけでバカとかじゃないと思うわ」

のび太「ありがとうほのかちゃん!」

というか地の文に反応しないでください

ドカーン!!

のびほの「!?!」

のび太「学校の方から爆発が!」

のび太「行ってみよう!」

ほのか「うん!」

学校

ブラック將軍「また貴様か! 仮面ライダーオーズ!」

オーズ「子供たちをドーパントにはさせない!」

ブラック將軍「お前たち、やってしまえ!」

マスカレイド、屑ヤミーなんか大量に出てきた

オーズ「な、なんか多くない!?!」

アंक「ちつ、屑ヤミーか。稼ぎにならないな」

オーズ「今はそんなことよりこいつらをなんとかしないと!」

屑ヤミー、マスカレイドはオーズに向かっていくが、メダジャリバーで斬られ、トラクローで引つ掻かれたりして消滅していく

照井「全ての仮面ライダーは俺が倒してやる」

先生「おお！君は！」

アクセル！

照井「変ツ身！」

アクセル！

アクセル「さあ、振り切るぜ」

スキヤニングチャージ！

オーズ「セイヤーツ！」

ドーン！

オーズ「ふう・・・」

トライアル！

オーズ「ん？」

アクセル「全て……振り切るぜ！」

トライアル！

ドドドドドドドドドドドド！

アクセルトライアルはオーズに接近し、蹴りを食らわせていく
Aトライアル「9・8秒。それがお前の絶望までのゴールだ」

オーズ「うわあああああああつ!!」

アंक「映司イ!!」

あ、言い忘れてたがアंकは腕だけです

ジャイアン「おっしやあ！やっちまえ！アクセル！」

スネ夫「やっちやえ!!」

しずか「……………」

「仮面ライダーにトドメを！」

その頃、のび太たちは

のび太「なんだろう。胸騒ぎがする・・・」
ほのか「急ぎましょう！」